

【会議録】

会 議 名	第 37 回 港区景観審議会
開 催 日 時	令和 8 年 3 月 24 日 (火) 13 時 30 分から 15 時 00 分まで
開 催 場 所	港区役所 9 階 914 会議室
委 員	(出席者) 9 名 齋藤 潮 委員 杉山 朗子 委員 長谷 高史 委員 矢口 哲也 委員 山崎 誠子 委員 渡邊 大志 委員 藤井 恵介 委員 奥平 浩 委員 根岸 晴美 委員 (欠席者) なし
事 務 局	街づくり支援部長、都市計画課長、街づくり計画担当係長
会 議 次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 歴史的建造物を守る仕組みづくりについて ①第 36 回景観審議会及び意見照会での意見と対応 (資料 1-1) ②提言書 (案) について (資料 1-2) ③今後のスケジュール (2) 第 9 回 港区区民景観セレクションの選定結果について (3) 第 10 回 港区区民景観セレクションのメインテーマについて 3 閉 会
配 付 資 料	資料 1-1 第 36 回景観審議会及び意見照会での意見と対応 資料 1-2 港区の歴史的景観を継承する仕組みづくりに関する提言 ~歴史的建造物・歴史的樹木を守るために~ (案) 資料 2 第 9 回 港区区民景観セレクションの選定結果 資料 3 第 10 回 港区区民景観セレクションのメインテーマについて 資料 4 年間スケジュール 参考資料 1 第 9 回 港区区民景観セレクション選定過程の詳細 参考資料 2 第 1~9 回 港区区民景観セレクション選定景観位置図 参考資料 3 港区景観審議会委員名簿
会議の結果及び主要な発言	
(発言者)	1 開 会 2 議 事 (1) 歴史的建造物等を守る仕組みづくりについて
事務局	(資料 1-1、資料 1-2、資料 4 について説明)

C委員	提言書の案には異論はない。一方、資料 1-1 には提言書に反映されなかった意見とその理由や提言書に盛り込まれていない区としての考えが整理されている。来年度以降の施策の検討にあたっては提言書と併せて資料 1-1 もぜひ参照するよう引き継いでいただきたい。
事務局	一年間を通して、各委員より貴重な意見があった。来年度以降の審議会では新たな委員の参加もあるが、資料 1-1 等を活用して検討の経緯を丁寧に説明していく。
I委員	来年度以降、具体的な仕組みづくりに取り組んでいく中で、予算計画はどのようなになっているのか。
事務局	来年度予算については新規調査や仕組みづくりの具体化、景観計画改定を委託費も含め計上済みである。具体的に補助金を創設する際等の予算については、財政課と調整しながら来年度以降に進めていく。場合によっては、補正予算での計上も可能であると考えている。
G委員	提言書に記載のある「歴史的建造物候補の新規調査」について、具体的な調査手法の見通しが立っているのか。
事務局	来年度については、「港区の歴史的建造物」に記載のある 282 の物件と、近現代建築として docomomo japan 等の既往調査を活用して候補物件を抽出し、合わせて 300 件程度の物件の中から所有者へのアンケート調査を行う予定であり、最終的には 200 件程度のリストアップを想定している。
D委員	提言書（案）について、異議がなければこちらの内容で採決を行い、決定とするが、よろしいか。
	提言書（案）の採決を行い、全会一致をもって可決
	提言書手交へ（区長入室）
	会長より、区長へ提言の概要を説明し、提言書を手交
	区長より、提言書を受けての挨拶
	区長は公用により、退席
	文化財の専門である藤井委員より、提言書の検討についての総評
	（２）第 9 回 港区区民景観セレクションの選定結果について

事務局	(資料2について説明) 質疑なし
事務局	(3) 第10回 港区区民景観セレクションのメインテーマについて
E委員	(資料3について説明) メインテーマで「景色」という言葉が使われている一方で、選択応募部門では「景観」という言葉が用いられている。こういった意図での使い分けとなっているのか。
事務局	区民目線での言葉のわかりやすさを考え、「景観」という言葉はなじみにくいということで、「景色」とした。選択応募部門では、過去からの経緯もあるので、引き続き「景観」とした。
I委員	候補①「私たちが今、伝えたい、時代を超えて受け継がれてきた景色」について、区民景観セレクションは個人応募であるため「私が」とした方が良いのではないかと。また、「受け継がれてきた」よりも「受け継ぎたい」とした方が区民の主体的な発信に繋がるのではないかと。
H委員	「伝えたい」や「引き継ぎたい」はテーマとして重く、区民が参加しにくいのではないかと。「私が見つけた」等の言葉を用いた方が、軽やかで区民も応募作品の想像がしやすいと思われる。
E委員	今回のテーマ設定の場合、応募作品がこれまでの区民景観セレクションで応募された作品と重複する可能性が多く発生するのではないかと。身近で小さな景色を応募するのであれば「私が見つけた」の方が良い。例えば、歴史的というところを強調すると、増上寺の写真が多く応募される、といった事態になることを危惧している。
F委員	過去の受賞作品の紹介も行い、極力これまでの応募作品と被らないような工夫をした方が良い。
A委員	選択応募部門との重複については、毎回少なくとも重複があるため、このままで良いと感じる。応募者が応募したいと思ったほうに応募をすれば良いのではないかと。応募することを後押しできるテーマにできると良い。
G委員	歴史や文化を扱った場合は、寺社仏閣等有名なものが応募されやすい傾向に感じる。これまでの9回で作品の雰囲気パターン化しているようにも感じる。素敵な、ちょっと古くて楽しいもの、自分で発見するというような要素を含めると道路の継ぎ目等、自分で発見したディテールが面白いもの等も評価されると良いのではないかと。
B委員	選択応募部門を残すことには賛成である。その場合、歴史・文化で重複が生じるため、「時間を超えて」等、歴史と文化を異なる角度から捉えるテーマ設

定が望ましい。

また、これまで 88 作品が選ばれているが、裏を返せば落選している作品も相当数あるということである。これまでに落選した作品はアーカイブされているのか。

事務局

データの保管は行っているが、これまでに落選作品の公開は行っていない。

B 委員

選出されなかった景観についても、少なくとも一人の区民が良いと感じた景観である。区民景観セレクションの今後の取組を考えていく際に、選出されていない作品の価値を考えていかななくてはいけないのではないかと。

D 委員

選出されなかった作品についても、応募者で集まって座談会等ができるとうい。かしこまった発信よりも、より面白い取組になると感じる。

事務局

港区は来年で 80 周年を迎える。これまでの作品を扱ったパネル展示等を各支所で実施することを検討している。落選作品を扱うことはこれまでに検討していないが、区と区民の関係性を表現するうえで有効であると判断できれば、検討を進めていきたい。

D 委員

オンライン配信等で軽やかにやるのも良いのではないかと。

A 委員

公園などは緑が育ってきて、時間が経ってから評価されるものなどもある。また、地区ごとに応募数の集計を行い、マッピングしても良いのではないかと。セレクションも長く行っているため景観の変化や、市民が気にかけている場所も分かるため、面白いのではないかと。

G 委員

候補②「次の世代に引き渡したい、歴史・文化を感じる景色」については、「子や孫」といった言葉を入れ込むとより身近に感じて、応募の意欲がわきやすいのではないかと。

I 委員

六本木の飯倉片町の坂道では、坂道全体に「速度を落とさない」といった文言が記載されており、外国人観光客に人気である。日本人にとって当たり前の景色も外国人にとっては「見つけた」景観として応募がある可能性がある。決して好ましい景観ではないが、特定の個人の気に入った景色をどのように評価していくかは、今後検討する必要がある。

G 委員

昔、東大の大学院生が台東区で行っていたが、インターネットで外国人が用いている地名をプロットすると、日本人と異なる場所に外国人が多いという傾向がみられることがある。港区でもそういった取組ができると、これまでの応募と異なる景観を発見することに繋がるのではないかと。

B 委員

最近、バングラデシュのダッカを訪問する機会があった。衛生的ではない部

分もあったが、喧騒にあふれた美しい景観であると感じた。応募の傾向も含め、区民景観セレクションでは整備された事例が多く選出されているように感じるが、綺麗に整頓されていない景観が選ばれることがあっても良いのではないか。

E委員

本来、景観に含まれるべき居住者の生活や祭り等の要素が、顔を映してはいけないといった要項によって汲み取れていない可能性がある。今後の検討事項として、応募要項の見直し等も考える必要があるか。

H委員

港区は近年、色々な地区で再開発が起こっていて、街がすべて新しくなっているような感覚もある。このような状況を踏まえると、次回のセレクションテーマとしては、「無くしたくない」や「失いたくない」というフレーズにするのもありではないか。あまり誘導的なテーマ設定にならない方が望ましいが、昔からある歴史文化の募集を目指す上では有効である。

D委員

委員の皆様からの意見を踏まえ、事務局と相談しながら、第10回のテーマの検討をする。

3 閉 会